

# WATER REVIEW 2023 FROM KAOHSIUNG

9th IWA-ASPIRE (第9回国際水協会アジア・太平洋地域会議) 速報 Vol.2 2023年10月25日(水) 日本水道新聞社無料配信

## 全体論的戦略が課題解決の鍵

国際水協会 (IWA) トム・モレンコフ会長 インタビュー

IWA (国際水協会) のトム・モレンコフ会長は10月25日、台湾・高雄市で開かれている第9回 IWA-ASPIRE 会議の会場内で本紙らの取材に応じた。水に関する日本の取組みへの印象や、基調講演で語った SDGs ゴール6「すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」の達成に向けた課題認識などを聞いた。

### — まずは日本の関係者の発表や展示に対する感想を

優れた発表・展示が揃っていることをとても嬉しく思います。日本はアジア太平洋地域のみならず、国際的な水分野の議論の場で大きな役割を果たしてきました。開会式のあいさつで私は、IWA に大きな影響を与えた人物として故・丹保憲仁北海道大学名誉教授を挙げ、その功績についてお話ししましたが、丹保教授だけでなく、これまで日本の多くの素晴らしい専門家が IWA に関わってきました。日本の関係者が大きな代表団を組み、本展示会で「ジャパン・パビリオン」を開いていることは非常に重要です。日本が提供する知識は水に関する科学的・専門的なものだけでなく、産業に関するものなど多様なのです。

### — 日本の海外貢献についての印象は

日本は数十年にわたって科学的研究や教育の面で重要な役割を果たしてきました。中国やここ台湾などに知見を与え、地域間の友好関係の構築にも貢献したと思います。

技術開発の面では、パイプやポンプ等だけでなく、電子機器についても大きな発展の最前線に立ってきたと思います。

日本が貢献しているもう一つの分野は、新興国への支援です。特にアジア太平洋地域は、開発に対するバランスの取れたアプローチが求められます。日本の支援策の素晴らしさは、条件付きではない点にあります。

— 23日の基調講演ではSDGs ゴール6の目標を2030年に達成するには行動の加速が必要とお話しされていましたが、私たちがすべきことは

2030年まで、あとわずか7年です。残されたこの短い期間でSDGs ゴール6の達成を目指すことは非常にチャレンジングなことです。とはいえ、水と衛生の重要性は高く、私たちが挑戦をやめるといふことにはなりません。

最も大きな課題は各国の能力開発だと思います。多くの新興国では、水・衛生が経済発展や社会の安全・健康に果たす役割について、大きな誤解があるように思います。私たちは衛生の基礎について、より意識を高めていく必要があります。

さらに、新興国の人々が水に関する課題を自ら解決できる能力を高める必要があります。微生物等の研究者やエンジニア、水道事業者のトレーニングを行い、ソリューションを各地域の中で実装できるようにするという事です。これは私たちが資金や施設の建設を支援すること以上に重要だと考えています。

— 日本では国の水道行政の移管が控えており、下水道や他のインフラ部門と同一の省が所管します。水とその管理の持続性について何かアドバイスするとすれば

立場上、特定の国の政治についてコメントすることは控え、一般論として話します。水循環について考える場合、取水から処理、使用、排出、再利用など、さまざま段階における「水」を理解する必要があります。なので、物事が一緒になるというアイデアは好きですが、実際にはそれが難しいということも知っています。異なる複数の部門が関わっている場合でも、全体論的な戦略があれば、多くの課題は克服できると思います。

日本国内の水資源管理について何かを話せる立場にはありませんが、日本政府の水セクターには膨大な知識と能力を生かし、国際貢献などグローバルな活動をこれからも継続されることを奨励します。



トム・モレンコフ会長 基調講演

### The Decade of Action in Water - Must We Fail? 持続可能な未来へ 水セクターに外向性求める

IWA-ASPIRE 会議の9本の基調講演のうち、23日の基調講演に IWA のトム・モレンコフ会長が登壇。「The Decade of Action in Water— Must We Fail?」と題して、国連・持続可能な開発目標 (SDGs) の Goal6 に対する持論を展開した。SDGs において水と衛生に関するゴール6には大きな期待がかかっているが、今年3月の国連水会議2023で示された世界水開発報告書の最新版によれば2030年の目標達成に向けた取組みの進捗は多くの観点で横ばい状態にあるとみられ、同報告書について「国際的な水危機の差し迫ったリスクを警告している」「都市部で水ストレスに直面する人口は2016年時点で9億3000万人だが2050年までには17～24億人に増加する可能性を示唆している」などと概説。その上で、「水が持続可能な方法で管理される未来を実現するには複数の課題がある。大切なのは解決に向けて何をするかということだが、特効薬はなく、私たちにできることはグローバルリーダーが集まる会議で素晴らしいアイデアを出していくことかもしれない」などと述べ、世界の水セクターがより外向的になることの重要性にも言及した。